下関東ロータリークラブ 創立60周年記念事業

遊びの学校
“ムダ”フォーラム
下関2025

山極壽一
霊長類学者

中村桂子
生命誌研究者

ドリアン助川
作家・歌手

髙橋 望
クラシックピアニスト

NOMA
モデル・アーティスト

校長 辻信一
文化人類学者・“ムダ”のてつがく者

絵 石原英介「この世界は愛に満ちている」

2025年 4月13日(日)
(ロータリーデー)

12時-16時30分頃(開場11時)

イベント内容
“ムダ”というキーワードを軸に展開していく、お話や音楽をたのしむ、学びの場です。

会場
下関市生涯学習プラザ 海のホール
下関市細江町3-1-1 ※下関駅より徒歩約15分

参加費
[前売] 一般:2,500円 大学生: 500円
[当日] 一般:3,000円 大学生:1,000円
※高校生以下は無料ですが、参加には申し込みが必要です。詳しくは、以下のウェブサイトをご参照ください。
https://www.mudaforum2025.com/
※前売券が完売した場合、当日券はございません。

チケット取扱い
・Peatix
・下関生涯学習プラザ

Peatix ウェブサイト

[主催] “ムダ”フォーラム 下関東ロータリークラブ
[協賛] 下関ロータリークラブ 下関西ロータリークラブ 下関北ロータリークラブ 下関中央ロータリークラブ [後援] 下関市 下関市教育委員会

義務の教育から、よろこびの教育へ

……スクール(学校)という英語は、ギリシャ語の「スコーレ」に由来する。そしてその「スコーレ」とは、もともと「余暇」や「自由時間」を意味していた。そこから、「哲学」という意味が、さらにそれを学ぶ「学校」、という意味が派生していったという。

現代の学校には、授業の合間に休み時間とか、自由時間とかがとってある。しかし、これはとても妙なことなのだ。本来は、学校そのものが余暇であり、義務やら責務やらに縛られない自由時間だったのだから。つまり、学校とはもともとサボる場所、時間をムダにする場所だったのだ。

辻 信一『ナマケモノ教授のムダのてつがく 「役に立つ」を超える生き方とは』(さくら舎)

戦争、気候変動、経済格差、少子高齢化、デジタルリスク……、わたしたちはいま、さまざまな社会問題を抱え、危機に直面しています。不登校やいじめといった子どもをめぐる諸問題も、深刻化しています。教育問題とは、学校や家庭の問題なのではなく、社会危機の一端です。子どもたちが発する悲痛な声に耳を傾け、既存の社会制度から転換を図る時が来ているように思います。

わたしたち下関東ロータリークラブは、創立60周年の記念事業として、本来の教育のあり方を学びなおす場をつくりたいと考えました。そこでこのたび、ナマケモノ教授として知られる文化人類学者の辻信一さんに校長を務めていただき、まったく新しい教育フォーラムをこの春、開催する運びとなりました。その名も、「遊びの学校 “ムダ”フォーラム 下関2025」です。

上記の辻さんの言葉の通り、学校とは元々、休む場所、自由に過ごす場所、サボる場所、時間をムダに過ごす場所でした。本当の学びとは、遊びの中で育まれるものだった、というわけです。また辻さんは、著書の中で、次のようにも言っています。【「役に立つ」から自由である経験が、子どもたちの幸せな人生にとっての揺るぎない土台となるのではないか。そんな経験を大いにさせてあげたい。そんな思いが詰まった学校に行かせたい。いや、そんな「ムダ」だらけの学校をどんどんつくろうよ】と。

というわけで、本会は「ムダ」だらけの学校を目指します。この学校の先生として、人間の目線を超えて、さまざまな生物の視点からモノゴトを見ている、遊び上手な方々にお集まりいただきます。たった一日だけの会ですが、義務の教育からよろこびの教育へと向かう道筋を示したい。まずは学びを遊ぶところから、一緒に始めてみませんか。遊びをせんとや生れけむ！

遊びの学校 “ムダ”フォーラムの先生

山極壽一

霊長類学者、総合地球環境学研究所所長、京都大学名誉教授。1952年東京生まれ。京都大学霊長類研究所教授、京都大学総長などを経て、現在、総合地球環境学研究所所長。屋久島で野生ニホンザル、アフリカ各地で野生ゴリラの社会生態学的研究に従事。著書に『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』(家の光協会)、『共感革命-社交する人類の進化と未来』(河出新書)、『争いばかりの人間たちへゴリラの国から』(毎日新聞出版)などがある。

中村桂子

生命誌研究者、JT生命誌研究館名誉館長。1936年東京生まれ。生物を機械ととらえる生命科学に疑問をもち、生きものの歴史を読み解く「生命誌」を構想。1993年JT生命誌研究館を創設し、2002年～2020年館長を務めた。著書に『自己創出する生命』(ちくま学芸文庫)、『生きている不思議を見つめて』(藤原書店)、『老いを愛づる-生命誌からのメッセージ』『人類はどこで間違えたのか 土とヒトの生命誌』(中公新書ラクレ)などがある。

ドリアン助川

作家、詩人、歌手、明治学院大学国際学部教授。1962年東京生まれ。1990年にバンド「叫ぶ詩人の会」を結成。解散後、執筆活動を開始。2013年出版の小説『あん』(ポプラ社)は、映画化に加え、24言語に翻訳された。著書に『線量計と奥の細道』(集英社)、『新宿の猫』(ポプラ社)、『水辺のブッダ』(小学館)、『動物哲学物語 確かなリスの不確かさ』(集英社インターナショナル)などがある。

髙橋 望

クラシックピアニスト。1975年秩父生まれ。ドイツの世界的ピアニスト、ペーター・レーゼル氏に師事。バッハの演奏をライフワークとし「ゴルトベルク変奏曲」のリサイタルを毎年開催。CDにソロアルバム「トロイメライ」、「ゴルトベルク変奏曲」(レコード芸術準特選盤)、「平均律クラヴィーア曲集第1巻全曲」(同・特選盤)、「バッハ・パルティータ第1,2,4番」などがある。

NOMA(ノーマ)

モデル、アーティスト、自然科学の案内人、環境省森里川海アンバサダー。1982年佐賀生まれ。自然の力を取り入れたライフスタイルや、自然への探究心を活かし、ファッションやビューティー、自然科学に関するメディア連載、セミナーなど、幅広く活躍中。著書に『WE EARTH 海・微生物・緑・土・星・空・虹7つのキーワードで知る地球のこと全部』(グラフィック社)がある。

辻 信一

“ムダ”のてつがく者、文化人類学者、明治学院大学名誉教授。1952年東京生まれ。1992年～2020年明治学院大学国際学部教員を務める。アクティビストとして、「スローライフ」、「ハチドリのひとしずく」、「キャンドルナイト」、などのムーブメントを展開。著書に『スロー・イズ・ビューティフル』(平凡社)、『ナマケモノ教授のムダのてつがく』(さくら舎)などがある。